

平成 29 年度 2 学期「第二回生徒による授業評価」のまとめ

2 学期の教科別「第二回生徒による授業評価」について、次のとおり報告します。

1. 各教科における協議内容

- ① 今年度取り組んだことがら（※下記）のうち、成果が表れていると思える点
- ② 今年度取り組んだことがら（※下記）のうち、課題が残されたと思える点
- ③ ①、②を踏まえて今後取り組むべきことがら
- ④ その他、この集計結果から読み取っておくべきこと

※「わかる授業を実現するための工夫」「思考力・表現力・判断力を身につける授業を実現するための工夫」等の具体です。

国語

- ① 授業内容に関して、「とてもよく当てはまる」が増加している。また、授業マナーについても改善傾向が明らかである。中学校でわからなかった内容を、ていねいに指導し、「わかる授業」を実践している効果が見受けられる。
- ② 思考力・表現力・判断力を身につけるために、どのような工夫が有効であるかについて、今後さらに研究・検討が必要であると考え。
- ③ 「わかる喜び」、「小さな達成感」を積み上げる授業のありかたについて、具体的な方法、授業展開などについて取り組みを共有し、検討していくことが必要と考える。
- ④ 教科全体の評価を押し上げている科目は、「国語総合」であった。「生徒の理解度に合わせている」に関して、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計が 9 5 %に達している。中学校でわからなかった内容の「学び直し」の必要性、重要性を改めて確認することができた。

地歴・公民

- ① ワークノートを使って、知識の整理・定着を図っている。また、ワークシートの他に教科書の内容から各種の史料やコラムを抜き出してオリジナルの学習プリントの作成や、解説プリントの配布などして理解を深めさせている。他にも、授業のテーマを明示することにより、学習活動にスムーズに入れるようにしている。
- ② 生徒間のグループワークが実施されていない。プリントの保存方法についての指導を工夫しなくてはいけない。ワークノートに取り組もうとしない生徒への対応が難しい。暗記型の学習になってしまう。
- ③ 生徒に積極的な発言や意見を表明できる機会をつくる。プリントの内容を精選し、生徒が自分の力で書き足す要素を取り入れるなどして、主体的に学ぶ力の必要性に気が付けたい。授業テーマごとの発問とその展開を工夫する。バリエーションや「わくわく感」のあるアプローチをする。
- ④ 生徒は機械的にマークしていて、授業及び自分の学習について自覚的に意識しているとは思えない。

数学

- ① 自作学び直し教材「マストレ」を行うことで生徒の理解度が増していると感じる。また、授業の際、生徒のところまでいき一人ひとりに丸付けをすることで生徒の学習意欲を高めている。
- ② 話合いや意見を発表する機会が少ない。
- ③ 生徒同士が解法を教え合う場面を各章で設ける。
- ④ 「チャイムが鳴ったら着席し、授業を受けられる準備を整えている。」の項目ができていないのにできていると答えている生徒が多い。

理科

- ① 小テストの実施が授業規律の面で非常に効果があった。
- ② 小テストの結果を見て、継続的な家庭学習にはつながっていかなかったと思われる。
- ③ 小テストをする前に学習内容の振り返りの時間をつくり、自分で学習するという習慣を身につけさせる。
- ④ 理科全体の集計結果では約 80%の生徒が「授業内容が理解できている」という結果であったが、定期テストの結果等から察するに大多数の生徒が授業内容を理解していないと教員は考えている。

保健体育

- ① 体育においては、授業内容・指導方法ともに当てはまると答えた生徒が 80%をこえており、成果が表れている。
- ② 話合いの機会が少ない。授業進度のバランスをとるのが難しい。
- ③ 今年度、残りの授業でのペア学習で教え合いや学び合いの機会をつくれるようにしていく。

芸術

- ① 授業内容についてはどの項目も「とてもよく当てはまる」「やや当てはまる」が 80%を超えているので、今年度の取り組みにおける成果が表れていると思われる。
- ② すべての項目のうち 80%に満たないのは「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」である。
- ③ 今後の授業内容について引き続き検討する。

外国語

- ① パワーポイントを利用したこと、教材を共有化したことに効果がでている。
- ② 発表の機会等のアウトプット面での活動が不十分であるがグループ活動を行うことが困難である。
- ③ 基礎学力の定着を心がける。また、英語の音が出せるような活動を取り入れる。
- ④ 新しい知識がなかなか身につかない。チャイムが鳴っても着席しない生徒が多い。

家庭

- ① 昨年度より発表の機会やグループワークが増えた。
- ② 思考を深める授業展開を増やす。
- ③ グループワークへの取組が悪い生徒への対応を今後検討する。

情報

- ① 「授業中 わかった、できたと思うことがある」の割合が 1 学期と比べて高くなった。また、生徒同士が教えあう雰囲気がみられるようになってきている。
- ② なかなか授業に取り組む雰囲気づくりが上手くいかず、思考力・判断力・表現力の育成にかかる時間が少なかった。
- ③ 授業内容のメリハリをつけながら、問題解決型の課題も取り入れて、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会を多く設定する。
- ④ 生徒自身の取組み状況の結果については、1 学期から比べれば改善がみられるが、まだまだ生徒と教員側の認識の違いがある。今後とも授業に興味を持たせ集中させる工夫をしていきたい。

2. 各教科における協議内容を踏まえ担当グループでまとめた来年度に向けた成果と課題

- ・複数の教科で共通した成果
第一回から継続して生徒の状況にあわせた教材の工夫や学習の進め方の工夫などを行うことにより生徒が理解しやすい授業を展開できていることが集計結果より読み取れる。
今年度から導入した授業遅刻の取扱いにより、チャイム着席への意識が高まっている。
- ・複数の教科で共通した改善点
グループワークや発表、生徒同士の話し合いなどを取り入れた授業を展開していくことは第一回から引き続き課題となっている。